

まがせ

第1号

発行者 平和学園
小・中学校同窓会
発行日 平成4年9月5日
編集・印刷 サイイン印刷
☎ 0467-82-6381

いま同窓会を考える



小25年卒 小学校同窓会長 大石茂生

「人生において友人ほど大切なものはない」年を経、人との出会いを重ねるにつれてそんなことを感じる年令になってきました。「小学校同窓会連絡誌」として続いていた「まがせ」が学校の都合で発行ができなくなる、と知らされて真に残念なことです。

理由は、小学校の生徒が減り、連絡誌に関連する費用を削減せざるを得ないとのこと。早速、同窓会役員との相談で、ともかく自力で第一回を発行することに決めました。しかし、同窓会としても当然ながら卒業生数の減少で、収入が見込めず、連絡誌の製作費や通信代などを考えると今後も続けることは極めて困難な状況です。今、小学校同窓会が単独であるあるべきかを問い直してみると、「同窓会」という世間一般のイメージで、何の事業をしようか、学校の現状や将来について同窓会の力をもってどう協力していこうかと

いった問題ではないように思いますが、

松林に囲まれた平和学園小学校、中学校で一緒に学び、遊んだという共通の場を介してのみ生まれた友人、駆け引きの無い真っ白い画用紙に描かれた友情。その仲間たちが何十年もの時間を経て、それぞれ又、別の学問を学び、そして社会経験を積みながら、もう一度この同窓の集いに戻って来たわけです。誰からともなく、「平和まがせ校友会」（仮称）の名称で同窓会を再発足しようよとの声が掛かりました。大賛成です！

多くの同窓生の中には、平和学園時代の体験があまり思い出したく無い人もあれば、一生忘れ得ない貴重なものであったり、それは様々であろうと思います。学年毎に調べてみますと、和気あいあいと楽しいクラス会を頻繁に開いているところと、逆にもう何年も会った事も無く世話人すら見当たらない

いクラスがあるようです。でも、もしも何かの機会に集まったら、そこから昔の愉快な集いがスタートするかも知れないのです。だって、子供の頃の友人ほど大切なものはないんですから。できの良かった者、悪かった者、けんかの強い奴やしょっちゅう泣かされていた人。それから、体の丈夫な生徒と弱い人間などが平等であり、互

「のではない」という心の同窓生が一人でも多く集合することを祈念致します。

大石会長は、今春から学校法人平和学園の評議員に就任されました。

このほか、田中茂夫君（小22年）、江幡玲子さん（高29

今秋-11月14日(土)-学園校友会初開催 母校の新体育館献堂式に合わせて

世話人会では、かねてよりこの秋に同窓会をひらこうと、その企画、準備作業をすすめていましたが、先頃母校より新体育館の献堂式の折に、同窓生諸君兄弟にもぜひおひろめしたいとのお誘いがありました。

当同窓会としてどのようなかたちで参加するのがよいか、高等学校同窓会とも調整した結果、「平和学園校友会」という名のもとに、小・中・高同窓会合同で母校の慶事に参加することになりました。

もとより平和学園校友会は、正式な機関ではありませんが、世話人会としては、今後各同窓会に共通するイベントや母校の大きな行事などには、こうした組織で運営、参加することを考えています。

初校友会の詳しいことについては、決まりしだい別にご案内いたします。同窓生諸兄弟、11月14日を今からマークしておいて下さい。また、各学年の世話人、幹事の方は、ぜひ今からクラス会などの計画をすすめて下さい。

同窓会と母校

中学校同窓会長
小28年卒 東 安彦

かつて、同窓会は一つでした。昭和三十八年、現在の三部制（ブラス同窓会評議会）へと移行しました。なぜ別々の組織としたか、詳しいことは定かでないが、思いが違っていたが、当時それなりの理由があったに違いありません。母校に歴史があるように、同窓会にもまた歴史があります。

もし、母校に栄枯盛衰があるとすれば、同窓会にも何年か何十年かのタイムラグを経て、また同じ波が押し寄せてきます。

今、学園は苦難の時、混迷の時を乗り越えて、四十有余年の伝統と来る新世紀を先駆ける理想を掲げて、湘南の地にその存在を確固たるものとしつつあるようです。

この時、同窓会もまた組織を固め体力をつけて、母校と共に新たな発展と活動を目指すチャンスです。すでに世話人会では小、中、同窓会を一本化するご合意し、四月には三会長による会談を持ち、さらに五月には学園との懇談を行うなど、時代にふさわしい平和学園同窓会のあり方を模索しつつあります。

同窓生総数が一万人を超えようとする現在、慢性的資金不足、会員の消息確認など困難な問題が多くありますが、母校を思い、同窓生を想う多くの有志の参加を得て、解決にむけての準備作業が、一歩一歩着実に進められています。

いに一生懸命助けあったではありませんか。

目下、有志の方々によって秋に開催予定の創立総会に向けて名簿づくりにも励んでいます。

年会費を支払ってでも「平和まがせ校友会」（仮称）を育てようとの積極的な支援をお願いします。「人生において友人ほど大切な

なつかしい日々



柳田 ひな 先生

今から四十五年前といえど敗戦後の衣食住にも事欠く、荒廃した世相であったが、私共の胸には明るい希望の灯がともっていました。「新しい時代が来たのだ」という喜び、その中には「平和女学校の誕生」という事実もあったのです。

平和女学校は昭和二十一年春、村島先生によって企画され、賀川先生もそれに助力して下さいました。当時私も娘が林間学校に在学していた御縁で教務の経験を生かして、微力ながらお手伝いすることとなりました。火の気もない寮の一室で、村島先生御夫妻と私共夫婦の四人が「生徒募集」のポスターを書いたことがつい昨日のように思い出されます。

そして、四月二十七日には念願の開校式が行われたのです。今はない木造の構堂で賀川先生が講演され、先生の選ばれた二つの讚美歌が力強く講堂一ぱいに響き渡りました。

授業は始つたものの、松林の中に散在する林間学校の寮や教室をお借りして、古だたみの上に古い机やいすを並べての授業でした。新しい紙一枚もないので、林間学校の古い体温表の裏を使って図画や作文・テストの答案も書くという有様で、私もその紙を使って校

則を掲示したり、授業の時間割を組んだりしました。

授業の始めと終りを告げるのにも、林間の玄関前に海軍の残してあった鐘を代る／＼先生が撞きに走るといふ有様でした。この仕事は翌年から第二回生の高峰さんが卒業するまで忠実に実行して下さいました。その高峰さんも今は亡き人となりました。

村島先生はこの学校を「平和女学校」と名付けられました。開校式で述べられた「キリスト教精神による自由で平和なあなたたかいた園」ということはそのまま建学の精神として今日まで変わることなく受けつがれました。

「弱い人をいたわるといふ伝統もここから生まれたのです。近所の公立学校からも校風を慕って転校してくる生徒もおりました。翌二十二年には六・三・三制という新制度になって、又男女共学

制となり、今まで中学は他の学校に行かねばならなかった男子生徒も平和の中学へ進学するようになりました。こうして第二回生から男女共学となり、クラスに活気も出て、社会科の時間には男女対抗の討論会も行われて、あわや喧嘩になりそうになったこともありました。学園も幼稚園、高等学校と

次々にできて、その名も平和学園幼稚園・同小学校・同中学校・同高等学校と現在の形が整いました。こうして「自由で平和なあなたたかいた園」という名にふさわしい家庭的な雰囲気にも包まれて、生徒たちはのび／＼と学園生活を楽しましました。父兄もこの雰囲気にも

け込まれて御協力下さいました。運動会・バザー等は父兄・生徒・職員が一体となって行事も盛り上げました。特に運動会では先生方とPTAの方々が演じる仮装行列は呼び物でした。私は今でも亡き南夫人の堂々たる横綱ぶり、加藤夫人のやせた閑脇姿（私は大関でした）を思い出します。又木村名人夫人のおみこしを担がれた姿も忘れられません。

狭かった校舎・校庭も隣接した県有地の払い下げを受けたり、旧

海軍兵舎の譲渡を受けて中高の教室にしたりして、自分達の校舎・校庭を持つことができました。校舎といつても戦時中に作られた仮設建物のこととて、屋根は雨もりし、窓ガラスも破れて風が吹き込む有様で、私共職員も生徒も雨が降るとぬかるむ道を傘をさして通つたものでした。途中道の真中にあ

る大きな水たまりに住む「ざりがに」を探して道草を食つたりしました。その後も学園は年毎に変化し、成長してきました。新しい校舎が次々に建てられ、今では迷路の如く複雑化しました。往年の学園しか知らない私のような者は、ただ

茫然とその威容に感嘆するばかりです。ただ種々の事情から中学校の募集を中止したり、男子高校生

の募集を廃止したことは、創立当時から関係した者には残念ですが、これもやむを得ないことでしょう。思えば四十五年の昔、まだ敗戦後の混沌とした社会にあって、いち早くキリスト教主義による学園の建設を企画し、創設された村島先生の慧眼に敬服すると共に、創立者である村島先生を敬慕する私共の気持ちを永久に残したい。創立当時の困難ではあったが充実した日々の喜びを同窓生の皆さんと共に思い出したいとの念願からこの拙い文を書きました。

なかつたと思う事もあります。小学校では10年ちよつと、それと重なる中高で20年位お世話になつたでしょうか。身体も弱かつたので、家庭的な平和学園だったので、このそ動められたのでしよう。

「われら愛す」つて歌のこと尋ねられました。戦争で荒廃した日本を建直す活気を与える様な歌という新国民歌で「君が代」に替わる歌としての候補曲から私が選んだのだと覚えています。今でも良い歌だつたと思いますよ。よく覚えていましたね。懐かしいと思われの方に歌詞を書いてみます。

われら愛す
胸せまる熱き思いに
この国を われら愛す
不知火 筑紫の海辺
みすずかる 信濃の山辺
われら愛す 涙あふれて
この国の 空の青さよ
この国の 水の青さよ

私と音楽と平和学園



五十嵐礼子先生談

私のはじめて平和学園と関わりを持ったのは、横浜短大校長の平野恒子女史の御紹介で、昭和23年の事でした。まだ戦後の混乱期で空襲で家を無くした人、外地から

引上げて来た人、戦地で夫や父を亡つた人、職員も生徒達も色々な事情を抱えていました。そんな中での昭和20年

代は、子供達とも音楽の勉強だけでなく生活面でもお付き合いがありました。先生の中山の御宅へ伺

つたり、東京まで音楽会に行つて夜遅くなつた事など思い出します。私が音楽を学ぶ事になつたきっかけは、姉が入つていたオラトリオの演奏会を聴きに行った事からです。宗教曲が好きで、毎日の礼拝で讚美歌を歌う平和学園で音楽を教えるのは楽しい事でした。優秀な子供達も沢山いました。私としては皆んなについて行けない子、苦しんでいる子に音楽の楽しさを知ってもらいたくて、若さもあつて気負つて手を掛けましたが、力が至らなかつたかも知れません。それでかえつて他の子供達に済ま

らされたと思つた事もありました。小学校では10年ちよつと、それと重なる中高で20年位お世話になつたでしょうか。身体も弱かつたので、家庭的な平和学園だったので、このそ動められたのでしよう。

「われら愛す」つて歌のこと尋ねられました。戦争で荒廃した日本を建直す活気を与える様な歌という新国民歌で「君が代」に替わる歌としての候補曲から私が選んだのだと覚えています。今でも良い歌だつたと思いますよ。よく覚えていましたね。懐かしいと思われの方に歌詞を書いてみます。

1992年2月28日 五十嵐先生の自宅を訪問して、色々聴かせて下さいとお願ひしましたが、もう年のせいと細かい事は忘れてしまつてと笑いながら言われました。でも写真など見ながら沢山のものと子供達の名を挙げてお話しして下さいました。お髪はまっ白になられました。皆さん御存知の深窓の令嬢の雰囲気はそのままで、お目も少し御不自由なので、ゆっくりとですが家事もなさつて、お一人暮らしをされています。沈丁花の薫る、梅の花のまつ盛りのお庭を眺めながら、紅茶をいただいて、楽しいひとときでした。木下ひろみ・大津幸子

だれだつた!
(S40.3卒業生と中嶋先生)





中嶋皓夫先生

遊びの天



恩師の近況

今思えば、夢のように過ぎた三年間でした。平和学園小学校、無性になつかしく、忘れがたい思い出いっぱいあります。楽しいことがたくさんあってと言うだけではありません。これまでの自分を支えてくれた生き方の原点みたいなものを平和で学んだように思います。貴重な体験をさせていただき今も感謝の気持ちでいっぱいです。

私は自分の体験から平和学園の良さを上げるとすれば、次の三点を上げたいと思います。一つは、教育環境が十分整っている点です。当時（昭和三十八年頃）はうっそうとした松林の中に平屋の木造校舎が点在する形でありました。教室から直に松林の庭へ出入りができ、庭へ出て歌を歌ったり、絵をかいたり、植物を観察したり、休み時間にはおにごっこをして遊んだりしました。海も近く、しょっちゅう子どもたちと海へ遊びに出かけたりしました。子どもたちはあのすばらしい環境の中で本当にのびのびと過ごすことができたように思います。

次に、創意に満ちた自由な教育の方針だった点を上げねばならないと思います。点数で順位をつけたりすることにはほとんど無関

「エーと貴女は〇〇ちゃん」「□□君」九十六歳になられた葛生先生は皆のことをとてもよく覚えていて下さいました。平成元年夏、先生のお宅でのクラス会です。アルバムを開きながらの思い出出ばなし。先生の昔ばなしも。

【昭和24年4月から1年数カ月ご担任の谷脇幸先生現在鎌倉老人ホームにてお元気です】
「その後、2年数カ月間若くて美人で素適な旧姓田原涼子先生。（我々男子から無惨にも夢を奪った憎い人）退職された横山先生、涼子先生ともどもお元気です。」「卒業まで熱血漢に溢れた杉田行光先生は現在体調を崩され入院中。お大事に」

小30年卒 加藤桂二・東克彦

井鍋先生にお会いしました。この欄の原稿を依頼するため

に三十数年ぶりに電話を掛け、樋口ですと名のつたら「あらジュリちゃん!？」といきなりの返事です。以前とちつとも変らない口ぶりでした。このあと町田の幼稚園の園長室に伺いましたが、持病の心臓の為、検査入院するとの事。変わりに私が書きますが、具合よくなって、次回は一筆お願いします。

小36年卒 樋口寿利

五十周年記念おめでとうございませう。今の学園の立派な姿を見る時、四十数年前の松林に点在するバラック校舎を思い出し、感慨無量です。今は中学校はありませぬが、当時約八十名ぐらいでスタート、豊かな自然の中で非常にユニークな先生方からユニークな教育を受け、個性豊かな人間造りをして頂き感謝しています。

かけつけました。横山先生の開会のお祈りでスタート。卒業以来39年。会えば当時に逆戻り。チャンづけで呼び合いそれは楽しく和やかな一日でした。次回は更に多くの級友が集まる様期待しています。

小27年卒 石井和子(東)

中年のオジサン、オバサン十一人もすっかり子供時代にかえったひとときを過ごしました。そして翌年四月、葛生先生は天に召されました。クラス会のお祝いまでも見送って下さった姿忘れられません。葛生先生の魂、安かれと祈ります。

小34年卒 玉野紀子

友の近況



幼な友達とは、妙に強い絆があるもので、人が何の術にも知る前の原点での出会いが、そうさせるのでしようか。兄弟にも似た親わしさがあります。忙しい日々の中で、ふと、息苦しさを感じた時、そんな暖たかさの中に身を沈めたくなるのです。又、そろそろタイムマシンを動かしましょう。

小34年卒 橋本弥生

母校には時々お伺いしておりますが、本館、グリーニアホールの新築に続いて、昨年八月には特別教室棟が竣工して、名実ともに充実し喜びにたえません。四十六年前、終戦直後の寺小屋のようだった古い校舎を想うと、隔世の感です。皆さんも時には懐かしい母校を訪れて下さい。建物だけではなく、良い先生方が暖かく迎えて下さいます。

小22年卒 田中茂夫

平和学園小学校を卒業して四十年、戦後の物資の無かった日々を平和学園で過ごした事が懐かしく思い出されます。平和学園中学校の同窓会が機能していませんので、私達は小26年、中29年、高32年の卒業生併せて五十三名で同期会をつくり、柳田先生を中心に年に一回程度不定期に会合を持っています。

小26年卒 片木文雄

昨年5月18日三年振りの横哲会を横浜中華街で開催。出席13名。大阪から塩川さん、私も福岡から

小47年卒 荒川久仁子(旧姓 山中)

大津先生の送りだした、最初の卒業生が、私達のクラスでした。3年間の間、厳しくも楽しい、沢山の思い出を下さいました。（私はたったの一年間だけでしたが）今、自分の子供達にも、同じように思い出を、作ってあげようと努力しています。

小39年卒 山田満

私は10年間学園で学び、4年前から小学校の同窓会を開き、懐かしさを語り合っております。

私も今は一児の母となり、日毎忙しく学園にも行けませんが、いつの日か思い出見つけに学園の門をくぐりたいと思います。

座敷に入ると一瞬知らない人？ お部屋を間違えたかなと思いましたが、良く見ると懐かしい顔々々 平和学園の中学校を卒業して三十二年目、林八重子先生を囲んでのクラス会、林先生はともお元気そう、今でもお宅でお料理を教

えていらつしやるとの事。 中学の時遂に仕上げなかったセーター、二年後妹が、先生の宿題のセーターを仕上げた提出した時、お姉様のは出来上がりでしたか？」と書いてあつて恐縮した事等々、懐かしい思い出一杯になりました。

総勢十八名、卒業以来だったのが、上野さん、西沢さん、渡辺さん、真鍋さん、若林君、橋本君が、橋本君は頭を丸めて、(心境の変化と思いきや、年のため〇髪を気にしてのこと)、若林君は一寸女の子の髪、先が長いね。頑

張つてと冷かされ、励まされていきました。そして相変らずの継ちゃん、加江ちゃん、そしてこの会のお世話して下さった幸ちゃん、

お世話を下された幸ちゃん、手も離れ、ボランティアなどに励んでいらつしやる御様子。何か人のためにという気持を持っていらつしやる事。あの懐しい平和の日々の教えが知らず知らずに心に残っているのでしょうか、そんな事を強く感じました。

三十二年振りに逢つても心を開いて話せる友達を沢山持つた幸せを噛みしめています。

二次会は茅ヶ崎駅のすぐ近く西沢さんのお店に押しかけて、本当に楽しい一日でした。

林先生いつまでもお元気で、またクラス会にいらして下さいませ。今回お目にかかれなかった方、この次には是非お目にかかりましょう。

私も皆様に負けないように素敵熟年を目指してがんばりますね。旧姓、ちゃん付けてごめんない。

中34年卒 門野幸子

終戦直後の一九四一年に、当時辻堂に住んでいた為、砂地の道を歩いて片道四十分の通学を始めました。喰うや喰わずの時代でした

が、売れない画描きの伯父が、ヤミ市で仕入れた白地キャンバスのランドセルに、セピア色のトーンで、西洋の帆船を画いてくれました。

兵金山を経由しますが、其処に住んでいた、一級上の美人の泰紀子さん、川上潤玄間晃(一九四六年死亡)そして若園みさ、岡本明子(当然、美人でした)……と連れ

立っての登校でした。下駄ばきでしたので、雨の日は特に、箆げ替え用の鼻緒を、二つ持つて出たものでした。

講堂の前の噴水池では村島婦之校長、担任の大橋マン先生が毎朝笑顔で迎えて下さいました。

毎朝の礼拝は、この讚美歌で始まります。「カミサマハノキノコズメマデ オヤサシクイツモアイシタモウ」四十有余年経つてもまだ覚えてます。そして、もうひとつの自慢は、「マイマルコカヨハネシトロマコリントガラヤエソビ

リビコロサイテサロニケ」です。賀川豊彦先生のお姿は、今でもそれこそ、神々しく記憶されています。お祈りは、ヒザをついてされるため、嫌でも靴が眼に入りま

す。何時でもピカピカの靴でした。後日伺ったのですが、お金が無いので、エナメルの靴ではなく、ツヤ出しのかかった雨靴だったそう

です。関西なまりの説教は、子供心にも何かが響いていた様です。神戸の貧民街での鯨の皮のザラザラの部分で行うトラホームの治療の話は、長じて水産大学に入学

して実習で鯨を見る度に、想い出したものです。大橋マン先生は、特に子供を自然に親しむ様導びかれ、海岸までの散歩の道すがら、植物の名前を教えて下さいました。

イヌフグリ、秋のキリン草、ニオイスマレ等々。今もって活用出来るものばかりです。当時は、平和学園を近所の人達は、リンカン学校(林間学校)とも呼んでいま

した。公立学校の生徒から見ると、リンカン学校の生徒は柔弱に見えるのと見えていじめられました。男のくせに、道ばたで摘んだ花を、胸にさしたりするものだから、目ざわりであつたものと思えます。

筆をとりましたら、往時の事々が湧き出て取りとめもなく書き綴りました。 小28年卒 大倉 顕

ごめんなさい…… 当初発行予定より一年近くも遅れてしまい、いただいた原稿の数字等多少変更させていただきました。遅れました事と共に紙面をお借りしてお詫び申し上げます。

ワープロ奮戦記

現在、小、中学校卒業生の名簿を改訂中です。副会長の大林さんのご寄付によるワープロを使用することになり、急拠初めていじる私たちの為にワープロ教室を開いてくださることになりました。雨の降る寒い日、横浜の関内にて約3時間半スイッチの入れ方から始まり、叱咤激励(叱咤の方が多かったような気がします)悪戦苦闘の文章にヤッター！と肩こりも忘れ、感激ひとしおでした。でもそれはあく迄も序盤戦、これから本番の名簿作りに入るのですが、戦々恐々…打ち合わせの場でワープロの話が飛び交うと、あの関内はどこへ行ったやら、頭の中は混乱するばかり…老化防止の為に頑張るか、それとも娘を拝み倒すか、今、心は揺れ動いています。ともあれ名簿は、秋にはお届けできる予定です。懐かしい友達と再会できる手助けになれば願っています。 — 中34年卒 深谷達子 —

1993年度 児童募集
●説明会 9月26日(土)
●選考会 10月30日(金)
●募集人員 30名(男女)
詳細は小学校 橋岡まで ☎0467(82)0093

歩みをともし

卒業した皆さんと何か繋がりが持てないものか、そう願って同窓会連絡誌「まつかぜ」を作りました。当時の校長、小杉英男先生は創刊号の初稿に目を通しながら、「将来は同窓会報にしたいですね」とおっしゃったものでした。先生はもう天国に召されてしまいました。先生が、そうした先生の夢が11年にして実現したことを心から喜んで

います。同時に誌面を通じ皆さんの消息や活躍ぶりを知ることができ、本當にうれしく思います。

さて小学校ですが、現在134名の児童と12名の教職員で構成。規模としては、ここ十数年あまり変わ

りませんが、グレイニアホールに続いて昨年、特別教室棟が完成し、学校は大きく様子が変わりました、しかし「自由で平和であたたかい……」という校風は健在です。ぜひ一度、学校をお訪ねください。

橋岡昭通

同窓会のお財布はピンチです！ 今年小学校同窓会と中学校同窓会が一緒になりました。活動するのに資金が必要ですが、財源がほとんどない状況です。近年の小学校卒業生から入会金として一人五千円を徴収していたのが主なる収入でした。

その中から数年に一度の同窓会総会の通信費と、去年まで小学校で発行していた連絡誌「まつかぜ」の印刷代の一部(通信費と印刷代の半額は学園負担)として消えて

いきましたので、世話人会の活動・通信費・その他の費用のほとんどは会員の好意に甘えていました。この度、合同の同窓会として発

足しましたので、あらためて会計を考えなければならぬと思います。今回又々一部の会員の方々の御協力により同窓会誌「まつかぜ」が発行できました。

会後の収入はどうしても皆さんに頼る他はないと思います。今、名簿を作成中です。広告のページを予定していますので、御協力いただける方は御一報下さい。また、近いうちに臨時会費を集めますので、よろしく願います。

事務局(平和学園内) 伊藤美保子 連絡先 0467(87)0131

編集後記



これまで小学校の先生方にお任せしていた「まつかぜ」：今回から同窓生だけの力で発行することになりました。幸い卒業生の斎藤さんが印刷をしてくださるといので編集集もちゃっかりお任せしてしましました。以来、大石会長

木下ひろみ